

新年あけましておめでとうございます。皆様には、心新たに仕事始めの日を迎えていただいたことと思います。平素より様々な分野で奈良県の子どもたちのために御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

一昨年に続き、昨年も新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でしたが、教職員の御努力により、学びを止めない工夫を行っていただきました。先行きの見えないコロナ禍ではありますが、この状況をこれまでの教育を見直すチャンスと捉え、進化を続ける学校をより一層支援してまいりたいと考えております。

さて、中央教育審議会では昨年1月に『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」を取りまとめました。また、令和4年度から高等学校では新しい学習指導要領が本格実施されます。私なりに令和の奈良型の県立学校の教育改革を進めたいと考えています。

1つ目はインクルーシブな社会の実現です。具体的な例として、今年度開設した榛生昇陽高等学校専攻科では、外国人と日本人が介護福祉士の資格取得に向け、ともに学んでおり、4月に開校する宇陀高等学校へと引き継いでいきます。また、山辺高等学校には、これまでの高等養護学校分教室での取組を踏まえ、知的障害の生徒を受け入れる自立支援農業科を設置します。

2つ目はICT教育の推進による授業と評価の改革です。県立高等学校では、今年4月入学生からBYODによる1人1台端末を導入します。これまでの授業について、教師の板書や説明が多く時間を占めていたり、生徒の発言の機会が限られていたりしている状況が課題であると捉えています。いわゆる「チョーク&トーク」の授業から、対話中心の授業へと転換する必要があると考えます。私は、授業の本質は対話だと考えております。1人1台端末等の活用により、生徒一人一人の意見や考え方を瞬時に共有することができることから、生徒との対話を重視した授業への転換を図ります。同時に、これまでの評価を見直し、子どもたちの学習に取り組む姿勢や取り組んだ内容を観点別に評価することにより、日頃の授業のあり方も変わっていくものと思います。子どもたちの個性をより引き出し、新たな時代に対応した教育が展開されることを期待しています。

第2期奈良県教育振興大綱が昨年3月に策定されました。その中で、奈良県教育の目指す方向性として、子どもたち一人一人の「学ぶ力」「生きる力」を育む「本人のための教育」を行うとしています。県教育委員会では、「本人のための教育」を推進するために、「奈良の学び推進プラン」を策定しました。ICT機器等も有効に活用しながら、子どもたちに対する「指導の個別化」と「学習の個性化」を図り、「個別最適化した学び」を実現してまいりたいと考えています。

昨年開催されました東京パラリンピック開会式のコンセプトは「WE HAVE WINGS」。グローバル化や技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代を生きる子どもたちに求められているのは、夢の実現に向け、人生の逆風を力に変える「翼」を広げ、力強く進んでいくことだと思います。本県の子どもたちが自らの進路を見つけ、その実現に向けて飛び立てるような「翼」を手に入れることができる学校であり続けて欲しいと願っています。

本年が皆さんにとりまして、明るく希望に満ちた実り多い年となりますよう心から祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

令和4年1月4日

県教育委員会教育長 吉田 育弘